

南那須地区広域行政事務組合

し尿処理施設整備基本計画（案）についてのご意見とご回答

■意見の募集期間 令和6年3月1日（金）～3月22日（金）まで

■意見の提出方法 書面での提出

■意見の概要と回答

該当ページ	意見・提言等	ご回答
P.39	<p>①表6-14 処理方法の総合評価結果の表における、方式1～3より方式4～5の方が環境に優れているので、方式4と5を比較した場合に、先ず建設費が方式5は方式4より17.4億円、1.64倍と高く、しかも維持管理費はメーカーの平均値とされているが、平均値が方式4と方式5で全く同じ事はありませんか、疑問であり再度検証願います。</p> <p>②また方式5は汚泥処理費用が発生しないとあるが、仮に売却するとしてもその販売費用、堆肥としての需要や売却価格、保管費用等は必ず発生するものであり、これらも検証願います。</p> <p>③更に方式4に比べ方式5は建設費から見ても、明らかに施設の工程が複雑と思われる、経年劣化による補修費用は必ず増大するものと思われます。 よって総括的には、先ず方式4と方式5の維持管理費用が同じになっているが、上記の理由から方式5の汚泥処理費用の再調査を求めます。</p> <p>④また点検補修では済まない建築物の補修状況を他のし尿処理施設を十分確認願います。</p> <p>⑤方式4と方式5を比較した場合、これまでの両方式の他の行政事務組合でのし尿処理施設での採用状況及び割合も確認の上、運営状況を把握願います。</p>	<p>①表6-14の「維持管理費計」は、各方式ごとの「用役費、点検補修費、機器更新費、人件費等」と「下水道料金」及び「汚泥処理費用」合計値になります。「用役費、点検補修費、機器更新費、人件費等」についてはメーカー平均値と比較しますと、方式5は方式4より用役費等も含めて20年間で約5.3億円高くなっています。一方で、下水道料金については放流量はメーカー平均値、組合圏域の下水道使用料金を用いて試算しており、方式5は方式4より20年間で約3.44億円低くなっています。</p> <p>汚泥費用については②にて改めてご回答しますが、方式4では施設内で生産した助燃剤を本組合の焼却施設で処理するため、本組合の焼却施設の現在の処理単価（15,000円/t）を掛け合わせて20年間で1.86億円としています。これらの合計を方式ごとの「維持管理費計」としており、偶然試算結果が同一となったもので、問題はないものと考えています。</p> <p>②具体的な堆肥の需要調査、売却・配布方法は今後の検討事項となるため、現時点で明確な費用の設定は困難であり、堆肥の売却利益等は見込んでいません。なお、他施設における堆肥の利活用事例としては、施設での地域住民等への無償配布や肥料会社への売却（500円/t）等があります。</p> <p>また、保管費用については、方式5の施設建設費に堆肥保管庫の整備費を見込んでおり、同一施設内で保管を想定しているため、別途保管費用は発生しない想定になります。</p> <p>③補修費用については、①でご回答したように、ご指摘のとおり方式5は方式4より機器設備等が多いため、20年間で約5.3億円程度費用を要する試算結果となっています。</p> <p>また、方式4と方式5の維持管理費が同じである理由及び方式5の汚泥処理費用については、回答①及び②に示すとおりです。</p> <p>④建築物については、本計画において鉄筋コンクリート造での建設を計画しています。他自治体のし尿処理施設においても鉄筋コンクリート造の施設で、建築物の大規模な補修をせずに30年以上使用している事例が、方式を問わず数多くあります。なお、本組合の既存施設である保健衛生センター（鉄筋コンクリート造）においても、建築物については大きな補修をせずに、38年間稼働しています。</p> <p>⑤過去10年間（平成25年度から令和5年度（予定含む））に竣工した施設で見ますと、河川放流の方式も含めて、資源化方式として堆肥化または助燃剤化を選定している施設が約80件あり、その内約19%が堆肥化となっています。</p>

■意見により案を修正した内容：修正した内容はありません。